

2 令和3年の気象経過（静内アメダス記録より）

令和3年は、3月の気温が平年より高く融雪は早かったが、4月の降水量が多かったため、耕起の進捗は平年並となった。

気温は、4月3半旬～6月2半旬は平年並からやや高めで経過した。6月3半旬は平年より高くなったが、6月4半旬～7月3半旬はほぼ平年並となった。7月4半旬～8月2半旬までは平年よりかなり高く（平均気温+3.6℃）、夏日（真夏日を含む）が18日間続いた。8月3～5半旬は一転して平年よりかなり低く（平均気温-2.3℃）、最低気温が15℃を下回る日があった。8月6半旬は平年より高くなったが、9月1～4半旬はやや低めに経過した。9月19日～23日は気温が高くなり25℃を超える日もあった。9月6半旬～10月3半旬までやや高めで経過したが10月4～5半旬は低くなった。5～10月の積算気温は平年より131℃（平年比105%）多かった。

日照時間は、4月～5月3半旬までは平年並からやや多く経過したが、5月4～6半旬は曇雨天が続き少なくなった。6月～9月は6月4半旬、7月1～2半旬、8月5半旬以外は並からかなり多く、各月の日照時間は平年比130%前後となった。10月は平年よりやや多かった。5～10月の日照時間は平年と比べ148時間（平年比115%）多かった。

降水量は、4月は多かったが5月～8月までは少なかった。特に7月は平年比32%と極端に少なく、7月13日～8月8日まで27日間で降雨日は1日（7月29日降水量4mm）しかなかった。9月1～3旬は少なかったが9月4半旬～10月は多くなった。5～10月の降水量は平年と比べ160mm（78%）少なかった。

3 農作物の生育経過

（1）水稲

は種作業は平年並に進んだ。4月中旬から5月中旬は高温で推移したため、出芽は順調で、苗質は良好であった。移植期は平年並の5月23日で活着は良好であった。6月2～3半旬は気温が高く経過したことから、初期茎数は平年並以上を確保した（写真1）。幼穂形成期は平年より2日早い7月3日となった。7月中旬から8月上旬は、断続的な高温（1日当たりの平年比で約3～5℃上昇）・多照（積算の平年比で約180～200%）が続き、まとまった降雨はほとんどなかった。7月の前歴期間、冷害危険期ともに平年以上の気温であったため、不稔は平年並であった。出穂期は平年より5日早い8月1日となった。8月中旬の気温は急激に低下し、登熟は緩慢となった。その後の登熟は概ね平年並に推移した。成熟期は、平年に比べ4日早い9月11日となった。

収量構成要素は、 m^2 当たり穂数や総粒数が平年より多く、収量は538kg/10a（作況指数109、北海道農政事務所10月25日現在）となった。品質は「ゆめぴりか」で胴割米（写真2）の発生が多い傾向であった。これは、①登熟前半が高温登熟であったこと、②その後の低温傾向で、親穂と遅れ穂の登熟進度に格差が広がったこと、③収穫時の水分ムラが拡大したことが、胴割粒の発生を増長したと思われる。また、一部白未熟粒の発生が見られたが、概ね平年並であった。食味について、タンパク含有率は平年並～やや低い傾向となった。

生育状況

区分	6月1日			6月15日			7月1日			7月15日		
	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)
日高管内 上段:R3、下段:平年 (遅速)	15.3	4.1	101	26.3	6.3	146	45.8	8.6	500	63.7	10.3	635
	16.0	4.2	95	27.8	6.2	151	39.6	8.4	441	58.9	10.0	624
	(±0日)			(±0日)			(早2日)			(早2日)		
本所 (遅速)	15.2	4.2	110	24.1	6.3	177	43.1	8.3	521	62.9	9.9	661
	(遅1日)			(遅1日)			(遅1日)			(±0日)		
西部支所 (遅速)	15.3	4.1	96	27.5	6.3	130	47.3	8.8	489	64.2	10.5	620
	(±0日)			(±0日)			(早3日)			(早3日)		

区分	8月1日			8月15日			成熟期における		
	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)	かん長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
日高管内 上段:R3、下段:平年 (遅速)	90.6	10.7	571	96.9	10.5	561	78.4	17.8	548
	83.1	10.7	542	92.8	10.7	534	74.9	17.1	520
	(早6日)			(早6日)			(早4日)		
本所 (遅速)	87.0	10.4	572	92.6	10.4	549	75.8	17.3	542
	(早3日)			(早3日)			(早4日)		
西部支所 (遅速)	92.6	10.8	571	99.3	10.6	568	79.8	18.1	551
	(早7日)			(早8日)			(早5日)		

生育期節および農作業状況

区分	は種期 (月日)	移植期 (月日)	幼穂形成期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	収穫期 (月日)
日高管内 (遅速)	4月23日 (±0日)	5月23日 (早1日)	7月3日 (早2日)	7月27日 (早5日)	9月11日 (早4日)	9月21日 (早4日)
本所 (遅速)	4月25日 (±0日)	5月25日 (早1日)	7月3日 (早3日)	7月29日 (早3日)	9月11日 (早4日)	9月15日 (早7日)
西部支所 (遅速)	4月23日 (±0日)	5月26日 (±0日)	7月4日 (早2日)	7月26日 (早6日)	9月11日 (早5日)	9月25日 (早2日)



写真1 初期茎数は平年以上を確保



写真2 玄米品質 (左:健全米、右:胴割米)

(2) 牧草

萌芽期は、平年に比べ5日早い4月3日となった。

6月以降、平年より気温が高く日照時間も多く経過したため、生育は順調に進んだ。1番草の収穫も平年より早く始まり、収穫期は平年より9日早い6月18日、収穫終も3日早い7月14日だった。1番牧草の収量は、平年よりもやや多かった。

7月中旬から8月上旬は高温少雨となり、水はけの良い草地や新播草地の一部が枯れあがったり、生育が著しく停滞した草地も見られた。草地への影響は、1番草の収穫時期によって異なり、1番草収穫が早い草地は2番草収穫後の再生が停滞し、1番草収穫が遅い草地は2番草の生育が停滞した。その後8月中旬以降まとまった降雨があり、生育が回復した草地も見られた。

8月上旬まで好天が続き、1番草収穫が早かった草地は2番草収穫を始めたため、2番草の収穫始は平年より10日早かったが、2番草の生育が停滞した草地は収穫を遅らせたため、収穫期は平年より3日早い8月30日、収穫終は平年より1日遅い9月20日だった。2番草の収量は高温少雨の影響により、ほ場によって大きな差が見られたものの平年並みの収量となった。

生育状況 (草丈)

区分	5月15日 (cm)	6月1日 (cm)	6月15日 (cm)	7月1日 (cm)	7月15日 (cm)
日高管内	35.7	78.6	98.9	12.0	31.9
上段:R3、下段:平年 (遅速)	31.8 (早2日)	69.0 (早3日)	94.8 (早3日)	9.0 (早1日)	27.1 (早2日)
本所 (遅速)	37.3 (早3日)	83.1 (早4日)	101.7 (早3日)	11.7 (早1日)	32.8 (早2日)
西部支所 (遅速)	32.4 (早1日)	69.0 (早2日)	93.0 (早2日)	12.7 (早2日)	30.1 (早3日)

区分	8月1日 (cm)	8月15日 (cm)	9月1日 (cm)
日高管内	55.5	70.6	72.7
上段:R3、下段:平年 (遅速)	54.3 (早1日)	74.0 (遅2日)	81.0 (遅2日)
本所 (遅速)	56.9 (±0日)	73.1 (遅1日)	74.4 (遅1日)
西部支所 (遅速)	52.6 (早2日)	65.4 (遅3日)	69.2 (遅3日)

生育期節および農作業状況

区分	萌芽期 (月日)	出穂始 (月日)	出穂期 (月日)	1番草収穫期 (月日)	2番草収穫期 (月日)
日高管内	4月3日	6月7日	6月9日	6月18日	8月30日
(遅速)	(早5日)	(早1日)	(早2日)	(早9日)	(早3日)
本所	4月2日	6月7日	6月9日	6月17日	8月29日
(遅速)	(早6日)	(早2日)	(早3日)	(早12日)	(早5日)
西部支所	4月6日	6月7日	6月10日	6月22日	9月2日
(遅速)	(早2日)	(早1日)	(早1日)	(早2日)	(±0日)

1 番草及び2 番草収量 (kg/10a)

区分	1 番草		2 番草	
	生収量	乾物収量	生収量	乾物収量
日高管内	2,659	532	1,035	283
上段:R3、下段:平年	2,510	517	1,086	254
本所	2,763	551	1,167	333
西部支所	2,436	492	752	177

(3) とうもろこし (サイレージ用)

6月の気温は、平年よりやや高く経過したため、出芽ならびに初期生育は順調に進んだ。7月中旬以降、高温と日照時間が多かったため生育は更に進み、雄穂抽出期は平年より2日早い7月30日となった。8月中旬以降の気温は、平年並に経過したため、登熟は順調に進み、黄熟期は平年より3日早い9月19日となった。収穫時期の降雨が少なかったため、収穫作業は順調に進み、収穫期は平年より3日早い9月21日、収穫終は平年より4日早い9月30日だった。生育が順調に進んだため収量は、平年よりも1割程度多くなった。

生育状況

区分	6月1日		6月15日		7月1日		7月15日	
	草丈 (cm)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	葉数 (葉)
日高管内	11.4	2.7	30.5	5.5	85.9	9.1	158.4	13.3
上段:R3、下段:平年	8.9	2.3	31.1	5.4	76.5	9.0	148.7	13.0
(遅速)	(早1日)		(早1日)		(早2日)		(早1日)	
本所	8.8	2.4	31.0	5.6	85.2	9.4	163.7	13.8
(遅速)	(±0日)		(±0日)		(早1日)		(早1日)	
西部支所	12.8	2.8	30.3	5.5	86.3	9.0	155.5	13.0
(遅速)	(早2日)		(早2日)		(早2日)		(早1日)	

区分	8月1日		8月15日		9月1日
	草丈 (cm)	葉数 (葉)	葉数 (葉)	かん長 (cm)	かん長 (cm)
日高管内	285.4	18.5	18.9	293.7	293.9
上段:R3、下段:平年	257.3	16.9	18.3	284.0	287.9
(遅速)	(早2日)		(早5日)		(早6日)
本所	296.8	18.6	19.2	317.4	318.2
(遅速)	(早1日)		(早2日)		(早3日)
西部支所	279.2	18.4	18.7	280.9	280.9
(遅速)	(早4日)		(早7日)		(早7日)

生育期節および農作業状況

区分	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	雄穂抽出期 (月日)	黄熟期 (月日)	収穫期 (月日)
日高管内	5月16日	5月25日	7月30日	9月19日	9月21日
(遅速)	(早1日)	(早1日)	(早2日)	(早3日)	(早3日)
本所	5月15日	5月26日	7月31日	9月19日	9月21日
(遅速)	(遅1日)	(早1日)	(早1日)	(早2日)	(早3日)
西部支所	5月17日	5月25日	7月29日	9月19日	9月21日
(遅速)	(早2日)	(早2日)	(早3日)	(早5日)	(早4日)

とうもろこし（サイレージ用）収量 (kg/10a)

区分	生収量	乾物収量	TDN収量
日高管内	6,832	1,902	1,267
上段:83、下段:平	6,081	1,678	1,172
本所	7,255	1,988	1,398
西部支所	6,605	1,856	1,196

(4) 野菜（主要生産町名）

①ピーマン 無加温半促成（新冠町）

好天に恵まれ、育苗から定植作業は順調に進んだ。定植後の5月の寡照の影響により、6月上旬は肥大が一部で緩慢に経過した。その後生育が順調に経過し、着果・肥大が進み、共選開始は6月2日となった（過去3年平均 6月3日開始）。

収穫作業は順調に進み、収穫はL・M規格が中心となった。7月～8月の高温少雨の影響により、尻腐れ果（写真3）や日焼け果（写真4）が多かったが、収量は平年よりも増加した。

病害虫は、5月末から一部ほ場で菌核病が発生した。尻腐れ果や日焼け果が多発し、アザミウマ類の発生も多かった。9月中旬以降は灰色かび病、ハダニ類が散見された。

販売数量は2,380tとなり（過去3年平均 1,943t）、平均反収は過去最高を記録した。



写真3 尻腐れ果



写真4 日焼け果

②ミニトマト 加温促成、抑制（新ひだか町）

促成作型は、好天に恵まれ、育苗から定植作業は順調に進んだ。定植後の生育は良好で、共選開始は5月17日（過去3年平均5月21日）となった。5月の寡照の影響を受け、6月は果実肥大にばらつきが見られた。7月の高温少雨により、一部ほ場では青肩果が見られた。促成作型の収量は昨年並となった。

販売数量は約1,300tとなる見込み（過去3年平均1,293t）。

抑制作型では、育苗～定植作業まで概ね順調に進んだが、高温の影響により一部徒長気味の苗も見られた。収穫は順調に進み、M規格中心の出荷となった。7月～8月にかけての高温、乾燥ストレスにより、花数の増加（写真5）や花飛び等が見られ、一部ほ場では小玉傾向の出荷が続いた。

病害虫は6月～7月にかけてアザミウマ類の発生が散見され、9月中旬以降は灰色かび病、斑点病の発生が散見された。



写真5 花数の増加

③いちご 夏秋どり（浦河町、様似町）

定植作業は順調に進んだ。株養成期間（3～5月）の生育量を確保したことから、花房が順調に生育した。

6～7月の出荷量は多く、JA共選場の共選開始は6月3日（過去3年平均6月8日）となった。一時的に芯止まり株が多く見られたが、果実品質は概ね良好に経過した。

7月下旬～8月上旬の高温による影響で、平年より株疲れ症状が多く見られ、軟質果も発生した。例年発生が見られる着色不良果の発生は少なかった。

病害虫ではハダニ類、アザミウマ類の発生がやや多く、生育後半はうどんこ病の発生がやや多くなった。

販売数量は230 tとなる見込み（過去3年平均218 t）。

④トマト 加温促成、半促成、ハウス夏秋どり（平取町）

苗の生育は良く定植作業は順調に進んだ。JA共選は5月2日（前年5月1日）から始まった。

6月中旬は急激な高温により葉焼け症状が散見された。また、葉焼け跡に灰色かび病の発生があった。

7～8月にかけてハウス内の高温による軟果も発生した。引き続き灰色かび病が散見された。

出荷は、前年に比べてやや遅い傾向が見られた。出荷前半は、玉肥大が良くL玉中心に経過したが、8月以降、出荷が多いものの、やや小玉傾向になり、落果が散見された（写真6）。

土壌病害の発生は昨年より少なかった。



写真6 トマトの落果跡

⑤きゅうり 抑制（平取町）

7月下旬～8月上旬に定植作業が終了し、活着は良好であった。JA共選開始は8月12日だった（前年8月21日）。

一部ほ場でアブラムシ類、アザミウマ類、うどんこ病、べと病の発生が見られた。

10月以降、尻太果、曲がり果の発生（写真7）が見られた。



写真7 きゅうりの曲がり果